

岩美町 町浦富自治会

～誰もが輝くまち～



浦富地区は、町役場、病院、保育園、小学校から高校までの教育機関が集中する、町内でもいちばん賑やかな地域。浦富地区公民館長も務める神谷 明子(かみたに あきこ)さんは、現在同地区の「町浦富自治会」の副会長として活躍しています。放課後児童クラブの指導員の他、時にはバスガイドも務め、一人何役もこなしながら、より楽しく、住民みんなが参加しやすい自治会運営をこころがけている神谷さんにお話を伺いました。

町浦富自治会の概要

- 町浦富自治会加入世帯 337世帯
- 役員 会長、副会長3名(うち1名女性)、会計1名
- 町内会の数 11

浦富地区の4つの自治会のひとつ。加入率は約8割と高い。

(令和8年8月現在)

副会長になった経緯

知り合いの役員に誘われて町浦富自治会の副会長になって5年目になる。その1年後に浦富地区自治会連合会から推薦を受けて浦富地区公民館長になった。

経歴

バスガイドとして社会人生活をスタートし、今でも1番好きな仕事なので年数回業務に就く。コミュニケーションや他のスタッフとの連携など、仕事で身に付いた能力やスキルが自治会の仕事にも役立っていると実感している。

他にも現在いろいろと忙しいが、性格的に世話好きだし、人と関わるのが好きなので、いろいろなことを楽しみながらやっている。

自治会の活動内容

町浦富自治会の主な行事は納涼祭、運動会、ポッチャ大会の3つ。若い人や子どもたちの参加も多く、「楽しかった!」という声を聴く。20年前から(放課後)児童クラブにも指導員として従事しており、保護者や子どもたちの声を直接聴くことができるので、若い人の感覚みたいなものはよく感じる事ができていると思っており、自治会運営にフィードバックできる場所もありがたい。色々な人の声を生かしながら、コロナ禍以降も行事を減らさず続けられているのは、自慢できていると思う。

活動自体は楽しい一方、負担が偏らないよう準備段階で可能な範囲で協力を呼び掛ける調整は必要だと考えている。

自治会役員会の様子

役員のうち主に、会長1名、副会長3名の4名で話し合って意思決定し、自治会内の11町内会に伝えている。女性は自分ひとりで、あとの男性3人は40代、60代、70代という構成だが、フラットな会なので、言いたいことが言える話し合いやすい環境なのありがたい。

女性の参画による自治会活動の可能性の広がり

女性は保育園、子ども会など育児期の交流などを通じ、地域の世帯構成や子どもの状況を把握していることが多く、生活に根差したつながりを持ちやすく、また、コミュニケーションに長けている人も多いように感じる。世間話からでも色々な情報の共有ができる。こうした情報や日常的な会話は、地域の見守り、ひいては地域防災にもつながってくるのではないかと思う。

他にも住民にとっては女性役員の方が連絡・相談しやすいようで、自分がいることで「女性がいてよかった」と言われることがあり、女性が1人でも役員にいる意義を感じている。

女性役員を増やすには

例えばグループLINEを使うことで仕事が減らせないかなど運営の見直しによる会議や行事の簡素化などの負担軽減、家族の協力や、子連れで会合に参加する人を受け入れる周囲の理解が必要。

また女性役員が次の候補者に声をかけることで人材が育ち、継続的に女性が参画できていくのではないかと考えている。

自分自身もともと家族の協力があり自治会活動にも参加しやすい環境にあった。女性が地域活動に参加するには、家庭内での家事・育児分担や相互理解が重要。

参加したいと思える自治会活動

各町内会の会長は1年で替わるので、負担が減るよう、できるところは昔のやり方を変更したり、簡素化するなどを心がけている。

やっぱり自治会や公民館活動には若い方々が出られると、町が元気になるので、若い人たちがなるべく出られるよう考えていきたい。

編集後記

浦富地区公民館長も務める神谷さん。サークル活動が盛んとのことで、お話を伺った日も公民館では音楽サークルやe-スポーツなど皆さん本当に生き生きと、楽しそうに活動していっぱいでした。浦富地区では、これからも年齢や性別に関わらず、誰もが安心して生活できる住みやすいまちづくりが続きそうです。